

# 第33回昆虫切手展



2018年6月9日(土)~10日(日)

会場:東京・目白 切手の博物館 3階

主催:公益財団法人日本郵趣協会 昆虫切手研究会

\*\*ごあいさつ\*\*



記念小型印

当研究会は 1968 年の創立以来 50 年になり、現在約百名が所属しています。昆虫切手展は 1973 年の第 1 回目開催から数えて 33 回目になります。

会員の日頃の収集成果をまとめた作品 30 フレームと、昆虫標本および昆虫関連グッズの展示をお楽しみください。

なお、今回のテーマであるテングアゲハとキャンベリーモクレンを描いた記念小型印を使用し、フレーム切手、記念カバーを制作・販売します。

J P S 昆虫切手研究会

1. テングアゲハ

石原 博

テングアゲハは、ベルベットのようないし緑色を基調にした美しい翅や、バルビと呼ばれる前方にのびた器官を特徴とする謎多き蝶です。

日本では見られない種類で、主にインド北東部から中国南西部を中心に分布しているとされています。

テングアゲハの魅力を楽しんで頂けるよう、昆虫切手展のパンフレット表紙に掲げたテングアゲハの切手に関するシート、FDC、MCとともに、フレーム切手等を展示します。

2~3. テングアゲハに魅せられて—「アゲハ蝶の白地図」より—

澤口 尚子

故五十嵐邁博士が完成を夢見た「世界のアゲハチョウ」図鑑には、各種ごとに卵、初齢から終齢幼虫、蛹、成虫等が美しい水彩画で克明に描かれている。

全てを埋めるためには、当時テングアゲハ、シボリアゲハ、ブータンシボリアゲハの生態解明が必要で、特にテングアゲハは異様な形態と性質を持ちながら、豪華極まりなく高貴な彩で、未知ゆえ宇宙からやってきた妖精のようにすら感じていた。

4~6. 2016-17 シジミチョウ勢ぞろい

石原 博

2016 年から 17 年にかけて、シジミチョウを描いた特殊切手、小型印、風景印が相次いで登場しました。このうち小型印は、いずれも当研究会員のデザインによるものです。

一躍、脚光を浴びることになったシジミチョウの切手、消印を用いたFDC、MCなどを展示しますので、可憐で美しいその姿をご堪能ください。

7~9. ギフチョウ

西田 豊穂

今年1月発行の会報<日々是好日>欄に「ギフチョウとムカシトンボ」というレポートを書かせてもらいました。

これは1980年に出たギフチョウの切手が、戦後日本の復興期に建設され、昨年開館50周年を迎えた国立京都国際会館とどう関わったかが、主なテーマです。

この会館からも近い京都の北山一帯はギフチョウやウスバシロなどの好採集地で、私も学生時代、ネット片手に足繁く訪ねました。そんなことを回想しつつ、ギフやヒメギフの郵趣マテリアルを収録したのが、この3フレームです。

## 10. 「あなたの街の郵便局」 蝶あしらいの 局封 佐々木雅子

キャッチフレーズ「あなたの街の郵便局」で親しまれた郵便局も、平成 18 年郵政局の発足で局封は白地に赤字と統一され、それぞれ工夫を凝らした各局名入りの茶封筒は過去のものとなりました。取り寄せの際、返信に局封の使用、差出人として局名入り印の押印をお願いするのを常として、集まったものの一部が展示品です。

## 11~12. ケベリタテハ 磯田 清

ケベリタテハは、ヨーロッパアカタテハ、クジャクチョウなどと共にヨーロッパを代表する蝶の一種です。日本でも北海道と本州（中部地方以北）の山地に見られます。ヨーロッパの蝶切手の常連と言ってもよい蝶で、マテリアルも豊富です。ここでは単片、初日カバー、実郵便、シートなどを展示しました。

## 13~14. ドルーリーオオアゲハ 族の切手類

淀野孝雄

ドルーリーオオアゲハ族には、赤道アフリカの原生林に生息するドルーリーオオアゲハとザルモキシスオオアゲハの2種類のみが含まれます。前者はアフリカ大陸最大の蝶で、後者は次に最大級の蝶で、また両種ともメスが極端こめずらしく、卵や幼虫、食草や幼生期の生態が何も分かっていません。この蝶の今まで入手した切手、FDC等の切手類を国別に整理して展示します。

## 15. 松本徽章工業(株)による小松崎茂の 昆虫切手カシエ 白野孝雄

小松崎茂は昭和を代表するプラモデルの箱絵や少年漫画雑誌などの表紙絵・挿絵作家でした。

東京都台東区に本社がある松本徽章工

業(株)はバッジ・トロフィー・メダルを制作する老舗の会社です。新企画で新しい切手と同じデザインの金・銀製のメタル切手とその切手の初日カバーのカシエ作成を小松崎茂に依頼し作られた初日カバーから純昆虫切手と準昆虫切手のカシエを紹介します。

## 16~18. アフリカ諸国発行の蝶蛾 田中克美

1962 年カメルーンのベニイロタテハのカラープルーフ、1984 年ブルンジの蝶の国名部分のプログレスブ・カラー・プルーフ等が入手できたので、これらのアフリカ諸国発行の蝶蛾を整理してみました。

## 19~20. 蝶のシリーズ切手/シリーズの中 の蝶切手 池内 昇

蝶の切手にはシリーズとして発行されたものが多いですが、普通切手のロングセットの中に1枚~数枚の蝶の切手が含まれる、という場合もあります。これらのシリーズから私のお気に入りのセットや好きな切手を含むセットをいくつか選んでみました。その結果、よく見る切手ばかりになりましたが、どうぞご覧下さい。

## 21~22. 花粉媒介者: Pollinators (アメリカ)

難波乗安

一般的な植物は他の同じ種の個体と花粉を交配することによって種子を作り、次世代にその命をつないでいる。この花粉の交配を実行する主な手段として、一部自然界の風を利用する場合もあるが、「花粉媒介者」となる動物(昆虫や小動物)を利用して、自己の花粉を運ばせて「受粉」を確実に完了させることが多い。

「花粉媒介者」をテーマにした切手がアメリカから、2006年と2017年に発行された。それぞれの切手とその郵趣品を展示します。

## 23~24. 水辺の昆虫 柴田 茂

トンボ、ホタル、ゲンゴロウ、アメンボの仲間のように、幼虫の段階や成虫の段階で、小川や湖沼、湿地、水田など水に関わって生活する昆虫たちがいます。生活史の中で、少なくともある部分を水中や水面で生活する昆虫たちには、どんなものがあるかを「水辺の昆虫」としてまとめてみました。

## 25. 40円切手「菜の花とモンシロチョウ」の 記念日カバー 白野孝雄

昨年に続いて初日カバーや記念日カバーを紹介します。昭和55年10月1日から平成元年3月31日まで40円の普通切手やコイル切手として販売されました。そのため各地の催し物や南極昭和基地まで様々な記念日カバーに使われています。

## 26~29. 日本のセミ・外国のセミ 西田豊穂

私自身は蝶蛾以外、昆虫全般の郵趣マテリアルを集めて現在に至っていますが、その中から今回、初公開のテーマとして、セミ関連の4フレームを搬入することにしました。

私の世代の必須参考書といえば、加藤正世著「趣味の昆虫採集」と平山修次郎著「原色千種昆虫図譜」でしたが、加藤氏はアマチュアながら、セミ博士の異名を持つほど、セミの研究で知られた人。私も多少、彼に感化されています。現在彼に代わるよう

なセミの研究者は不在。残念です。

## 30. エクアドル 1970 年通常(蝶)切手

加藤利之

エクアドルで 1970 年に蝶図案の通常切手 20 種が発行されました。これらは前期(1~7月)に 10 種、後期(8~9月)に 10 種の 2 回に分けて発行されています。前期と後期の切手図案は、額面が同じものは同じですが、前期は切手の背面に淡色の水色や桃色などが印刷され、後期にはそれが印刷されていませんので、容易に区別できます。これら 20 種の切手は、すべて自国で初めて印刷されたもので、印刷・製造の経験不足からと思われる無目打、印刷漏れ、印刷ズレ、逆刷り、裏写り、また、これらが組み合わされたもの等が多数あり、さしずめエラーの見本市というべき切手ばかりです。これらを額面別にまとめて展示します。

### <昆虫関連の展示物>

1. テングアゲハなどの昆虫標本  
西田豊穂 木勢庄平
2. 端紙利用の三拍子[切手・翅・消印]  
佐々木雅子
3. 1930-60 年代アメリカの雑誌における  
蝶の艶姿 石原 博
4. 昆虫フィギュアの数々 石原 博

### 「JPS昆虫切手研究会」へのお誘い

★「JPS昆虫切手研究会」では、2018年度より年会費を3,000円から2,000円に値下げし、「新規ご入会キャンペーン」を行っています。この機会に是非ご入会をご検討下さい。期間中にご入会頂いた方には、次のプレゼントを進呈します。

1. 「JPS昆虫切手研究会報」過去1年分(6冊)
2. 昆虫切手 100 枚セット

★まずはご連絡を! 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-10-20

代表 岡崎良隆 TEL048(831)5064